



目 次

- ・新理事長ご挨拶 OMUP 理事長に就任して 八木 孝司 …… 1
- ・『ほっとかない郊外』が第32回地方出版文化功労賞特別賞受賞 …… 1
- ・常務理事就任のご挨拶 大塚 耕司 …… 2
- ・第36回 OMUPサロンのご報告 …… 2
- ・次回第37回 OMUPサロンのご案内 …… 2

- ・ もう一つの社会貢献、大学出版 ―OMUP 地道ではあるが
ステディな足どり― (2) 若手研究者の出版とスキル・アップ、10冊
足立 泰二 …… 3
- ・ 自著を語る(30) 日本における生殖医療の最適化 浅井 美智子 …… 5
- ・ 新刊書の紹介 …… 6
- ・ 大阪公立大学共同出版会事務局より／編集後記 …… 6

新理事長ご挨拶



OMUP理事長に就任して

昨年、大阪府立大学を定年退職して名誉教授の称号をいただき、6月にOMUP理事長を拝命しました。

OMUPを2001年に設立され、その後もその運営に中心的な役割を果たされてきた足立泰二前理事長の後任としてOMUPを任されることには大きな不安がありますが、引き続き前理事長が顧問としてサポートしてくださるので、教えを乞いながらOMUPの発展に貢献したいと思います。

OMUPは、NPO法人として活動しており、おもに大阪府立大学および大阪市立大学の教員および関係者に会員に

OMUP理事長 八木孝司

なっただき、会員の研究や教育の成果を低コストで、高品質な書籍として刊行支援することを目的としています。OMUPは大学とは別法人ではありますが、両大学が教育・研究に加えて大きな柱としている地域貢献活動の一翼を担っていることを誇りとしています。

理事長になって数ヶ月の経験で、大学教員および元教員がNPOとして出版活動を行うことの難しさと責任の重さを身にしみて感じました。OMUPは、商業出版社では刊行が困難な本を、できるだけ著者が望む形で、著者と一緒に作っていきたいと思いますので、今後も会員の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

『ほっとかない郊外』が第32回地方出版文化功労賞 特別賞受賞

弊会より発刊した「ほっとかない郊外
- ニュータウンを次世代につなぐ」が、第
32 回地方出版文化功労賞特別賞を受賞し
ました。著者の一人である大阪市立大学
小池志保子准教授が表彰式に出席され、
受賞講演をされました。それに伴い、(株)
地方・小出版流通センターから発行され
ている情報誌「アクセス」に八木孝司理
事長が、本書とそれに先立つ本「いきで
モデルの構築」を紹介しました。



常務理事就任のご挨拶



—ごあいさつ—

大塚 耕司

初めまして。今年度から理事を拝命しました人間社会システム科学研究科の大塚耕司と申します。私は、1989年に大阪府立大学大学院工学研究科博士前期課程船舶工学専攻を修了したのち、すぐに同研究科の助手となり、講師、助教授を経て2007年に教授に就任しました。2012年の大学改革の際、現代システム科学域の立ち上げに参画し、現在の所属は、2016年に設置された人間社会シ

テム科学研究科現代システム科学専攻となっています。学生の際は海洋構造物にはたらく流体力に関する研究をずっと行ってきましたが、1993年の博士（工学）の学位取得後は、海洋環境や海洋資源の研究に大きく軸足を移し、大阪湾の環境修復技術に関する研究、海洋深層水の多目的利用に関する研究などに従事し、最近では多世代共創による漁業と魚食文化の再生に関する研究に取り組んでいます。これまでは、大阪公立大学共同出版会から著書を出版したことはありませんが、縁あってこのたび理事を拝命することとなりました。まだまだわからないことだらけでご面倒をおかけすると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

第36回 OMUP サロンのご報告



第36回 OMUP サロンが、2019年8月23日（金）（18時半～20時半）、まちライブラリー@大阪府立大学（I-site なんば3階）で開催されました（第56回アカデミッ

クカフェとの共催）。演者は、OMUP が最近発行した『活断層と私たちのくらし—その調べ方とつきあい方—』の著者である伊藤康人教授（大阪府立大学大学院理学系研究科）。八木孝司 OMUP 理事長のあいさつの後、伊藤先生の講演が始まりました。

日本列島では1995年の阪神・淡路大震災のころから地震活動が活発になりだしたようで、大きな被害が出る規模の地震が

頻発しています。そのような地震とつきあうには、地震を起こす活断層の実態について調べなければなりません。先生はその調べ方についてわかりやすく説明してくださった後、地震とのつきあい方について話をしてくださいました。

地震が起これば、逃げなければなりません。「地震はたしかに起こるだろうけど、自分のところでは被害が生じるほどの地震は起きないだろう」などと根拠なく思っているうちは、逃げ方のことなど真剣に考えないかもしれません。先生はエリアを大阪に絞り、よそごとではなく、自分たちに大に関わりのあることとして話を進めてくださいました。大阪府立大学の真下に火山体が伏在しているといいます。まさか！地震による被害が自分に及ぶことを想定して話を聞かずにはおれなくなりました。先生は、現場での防災への取り組みに関する聞き取りを熱心に行なわれたようです。それを防災に活かすとともに、自らの学問の糧にしておられるように思いました。（文責：中村 治）

次回 第37回 OMUP サロンのご案内

『小学校卒業写真で見る 服装・風俗の変化』

※今回は大阪府立大学地域連携室主催第60回アカデミックカフェとのジョイントとして行われます。

講師：中村 治先生（大阪府立大学人間社会システム科学研究科 教授）

日時：2020年2月12日（水）PM 6：30～PM 8：30

（受付PM 6：00～）

場所：まちライブラリー@大阪府立大学

住所：大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル
大阪府立大学 I-site なんば3階

定員：30名（定員になり次第、締め切り）

会費：無料 持ち物：テーマに沿った本

テーマ：「はかま」「洋服」「学生服」

「束髪」「おかっぱ」「坊ちゃん刈り」

これらのテーマに沿ってなくてもお勧めの本があればお持ちください。本を用いた自己紹介の時間があります。皆様に寄贈していただいた本を集めてまちライブラ

リー内にコーナーを作りますが、寄贈は任意です。

申し込み方法：E-mail で以下の内容を記載してお申し込み下さい。お1人1通の申込みが必要です。

【E-mail】acafe60@ao.osakafu-u.ac.jp（※半角英数/携帯メール不可）
（今回のOMUPサロン・アカデミックカフェ専用アドレス）

【件名】第60回卒業写真

【本文】①氏名（フリガナ）②携帯番号 ③この講座を知ったきっかけ、またはチラシの入手先

問い合わせ先：大阪公立大学共同出版会（OMUP）

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学内

Tel：072-251-6533 Fax：072-254-9539

E-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

(2) 若手研究者の出版とスキル・アップ、10冊

OMUP 理事（顧問） 足立 泰二

我がOMUPはNPO（特定非営利活動法人）として、我が国唯一の大学出版会である。今回は、その特徴的実績をつまびらかにし、日本の大学出版が社会に如何に対応すべきかについて、読者諸氏のご賢察を頂きたい。社会貢献と唱える場合、一般に理解されている社会福祉あるいは「災害ボランティア」に見られる慈善活動的傾向と取られがちである。複雑化、ビジネス化が極端に進んだ我が国においては、社会貢献を湯水のように浪費したがる傾向にある。建前があまりにも先行する先進国、とくに日・米両国であるのだが、余りにも理不尽さが目立つ。我々の力は微弱であろうと、経済偏重主義に竿差そうではありますまいか。それが結局は社会に貢献する可能性を秘めているものと思うのである。

例えば今、我が国で博士号が出せる大学（実質は研究科）数がいくつあるだろう。でも、理系と言われる分野では本を出すことの意義を疑い、文系においては出版出し惜しみ傾向が目立つ。本来、学術はその成果を世に問い、問題提起をすることで貢献すべきものである。ここにOMUP初期10年余りの実績を紹介しよう。

北原 博著「ゲーテの秘密結社—啓蒙と秘教の世紀を読む—」



2005. ISBN4-901409-12-3

OMUP設立4年足らず、初めてのドクター論文の一般向け啓蒙書ともいえる書籍である。「秘密結社」と聞いて、「フリーメイソン」をイメージされた方もあろう。かつては会員寄付による社会的弱者のための施設運営に携わる慈善団体のイメージが強かった。このキーワードをもとに2世紀も前のゲーテとその時代の「人間観と儀礼から生の実相へ」と迫る。いわば、その頃の世界史を知る上で貴重な知的蓄積とでも言えよう。著者には明らかにされてはいなかったが、出版1年後、全国の関連学会賞にノミネートされた。残念ながら、結果的には日の目を見なかったが、OMUP評価へと繋がったものと言えるだろう。なお、著者は現在北海道のある大学教員として活躍中である。

鄭 楊著「孤独な中国の小皇帝 再考 一都市家族の育児環境と社会化—」 2006. ISBN978-4-9014409-44-5

教育社会学とでも言える分野に、母国の一人っ子政策の断



面を見直し、都市家族の育児環境と社会化に目を向けた取り組みをして、大阪市立大学文学研究科に提出した博士論文である。まえがきに代えて、同研究科の指導に当たられた堀内達夫教授のメッセージが寄せられている。国際化の中で重要性の増しつつ

ある育児環境と女性の社会化の問題は、日・中比較研究として現在にも異彩を放っている。著者は現在ハルビン師範大学校にあって、その後も日中共同研究を展開し、OMUPから2冊目の著書「転換期に生きる中国都市家族の育児と女性たち」の刊行も間近である。グローバル社会に現代問題を投げかけていると言える。なお、鄭楊さんの当時の出版記念パーティ（第18回OMUPニューズレター・サロン報告に掲載）の様子を知ることができる。

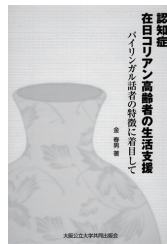
白田 由樹著「サラ・ベルナル メディアと虚構のミューズ」 2009. ISBN978-4-901409-67-4



これも前述二著と同様、大阪市立大学大学院文学研究科に提出された博士論文が底本となっている。19世紀末の演劇界で活躍し、フランスの生んだ世界的女優サラ・ベルナルを文化としてのメディア研究に切り

込んだ出版である。若手ながら今でいうジェンダーについても触れていて興味深いところでもある。なお、著者の白田由樹さんはその後、大阪市立大学教員となり、ご活躍中である。

金 春男著「認知症 在日コリアン高齢者の生活支援 パーリンガル話者の特徴に着目して」 2010. ISBN978-4-901409-71-1



韓国からの苦学留学生として大阪府立大学で学位を取得した。その成果を克明に記録し、ユニークな書籍としてまとめたものである。この著書は指導教官であった大阪府立大学人間社会学部黒田研二教授が監修頂き、その努力を称賛しておられる。発行部数は少なくとも、この分野での社会への働きかけとしては有意義な出版躍如たるOMUPを世に大いに主張したい。

三船 直子著「自己愛スペクトル 理論・実証・心理臨床実践」 2010. ISBN978-4-901409-73-5



本書は、すでに大阪市立大学生生活科学部で臨床心理学の分野で教育実績をお持ちの三船先生が、長年この分野での「自己愛」についての理論と実証、さらには啓蒙的著述をされたものである。発行部数は決して多くはなかったが、臨床心理の現場医療で活躍されている若い皆さんからも好評を得た出版であった。

奥野 みち子著「創作の魔術師 トニ・モリスン」 2011.



ISBN978-4-901409-77-3

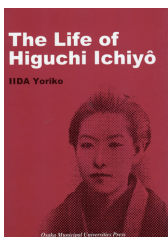
本書あとがきにも詳述されているように、著者は30年間社会で働いた上、社会人入試制度を利用して、英米文学の道に進学し、大阪市立大学大学院文学研究科に博士論文を提出。難解とされるトニ・モリスン作品を通して、古今の名著をベースに、老練ともいえる筆致で展開する著述姿勢を知り、著者の志向する文学像が現代の日本人にあっても異彩を放つものとして、大いに再評価されるものと期待している。同氏もその後、大阪市立大学で、後進の指導に尽力されているとお聞きして、益々のご活躍を期待したい。それがまた、貴重な社会貢献でもある。本著も指導教官であった大阪市立大学大学院文学研究科田中孝信教授の貴重な「まえがきにかえて」が寄せられている。

柄谷 純一著「日本軍接收図書 中国占領地で接收した図書の行方」 2011. ISBN978-4-901409-84-1



徳島県の図書館司書(高校)を勤めながら、社会人入学した博士課程での成果を博士(創造都市)論文として上梓されたものである。接收時間軸に沿って、一次史料を精査し、二次史料をも研究のアプローチとし、さらには略奪図書の行方、返還の経緯にも及ぶなど史実を立証しながらの論証である。指導に当たられた大阪市立大学大学院創造都市研究科北 克一教授によれば、この種の研究にとって後学者への道標ともなるとの高い評価を受けた。ちなみにこの本の書評は各方面から頂き、この種の本としては異例の増刷をしたのであった。

IIDA Yoriko The Life of Higuchi Ichiyô 2012. ISBN978-4-901409-94-0



大阪府立大学で教鞭を執られた飯田依子さんが、長年かけて溜め置いた「樋口一葉の人生」について、先行研究書を辿りつつ、英文冊子に取りまとめたものである。樋口一葉はわずか24年と7カ月の命でしかなかったのだが、著者の言によると、この英文書には、当時の時

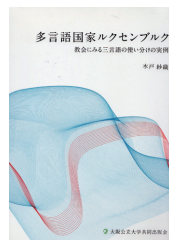
代背景も含めダイナミックな生きざまを詳述した、とのこと。我が国の出版活動として、この種の出版物が一般化するかどうか、確たる見通しはない。しかし、日本の大学出版としてこのような試みは国際的社会貢献とよぶのにふさわしいものになるのではないだろうか。

川村 千恵子著「乳幼児をもつ母親のウェルビーイング」 2013. ISBN978-4-901409-97-1



育児期の母親に焦点を当て、母親の健康の本質と課題に対応しようとする、意欲的な著書と言える。母親の肉体的および精神的健康を「ウェルビーイング」という概念を用いて指標化し、測定可能な尺度を開発してナラティブ・アプローチの有効性を提示し、地域子育て支援の実践へと提言している。在職する私立大学の出版助成を受けて、完成したものである。本書は本欄2番目に取上げた鄭楊氏とはまた違った切り口での子育て期の社会学とでも言えようか。処女出版ながら地道で力強い書籍となっている。

木戸 紗織著「多言語国家ルクセンブルク 教会にみる三言語の使い分けの実例」 2016. ISBN978-4-907209-50-6



本書は大阪市立大学文学部、同大学院文学研究科を通じ、多言語国家ルクセンブルクを核にドイツ語およびフランス語をも公用語としている国の言語学的考察を教会での言語調査を基軸として論じられたものである。世界で最も多く読まれている書物、「聖書ほど研究し甲斐のあるものはない」の教訓を忠実に守り、ドイツ・ハンブルク大学での研究生活実体験をふんだんに取入れた著作として、広く認められた。なお、この本は大阪市立大学大学院文学研究科が独自に推進している若手研究者出版助成制度によるものとして、今後も継続・発展を期待する。

以上、OMUP創立時から、若手研究者が処女作として、私が思い出した弊会出版物10点を紹介した。私自身の40年以上に及ぶ体験からしても、理系文系を問わず教育の原点は、教員と、それに追いつき追い越す後進、つまりは若手研究者の切磋琢磨だと思う。それを裏付ける若手の出版物は今後も大学出版会にあっては大いに奨励されるべきだろう。

次回からは、OMUP 設立の原点ともいうべき、いくつかの問題を取り上げつつ、昨今の書籍出版について、その問題点を指摘していきたい。



日本における生殖医療の最適化

浅井 美智子 著

A5判、並製本、140頁 1,800円＋税

ISBN978-4-909933-00-3 C3036

日本で初めて体外受精児が誕生したのは1983年です。当時のニュースで、体外受精児を「試験管ベビー」と呼んでいたことを覚えています。とはいえ、18世紀フランスの哲学者ジャン＝ジャック・ルソーの研究をしていた私が、よもや新しい生殖医療の研究をするとは夢にも思っていませんでした。それはただ偶然の巡り合わせとしか言いようがありません。この研究を始めたきっかけは、

大学で助手をしていた1990年頃、当時の研究科長であった生物学者太田次郎先生から「人工生殖」の研究をしてみないかとの誘いでした。人工授精と体外受精の違いも知らなかった私でしたが、「人間の生命を人工的につくる」ということはどのような意味をわれわれ人間にもたらすのか興味を覚えました。同時に、体外受精は文字通り、生命を体外で人の手によってつくるのであり、自ずからなる「自然」と対極にあることに不安を感じたことも事実です。

「自然のものが人の手に渡るとすべてが悪くなる」というルソーの言説に親しんでいた私にとって、「人工生殖」は悪いもののようにも思えたのでした。しかし、「命を人工的につくる」という科学への興味も覚えました。17世紀西欧においては、たとえば「知は力なり」というペイコン、「人間機械論」を唱えたデカルトなど、「自然の支配」を主張する哲学が現われ、今日の先進的科学技术の哲学的拠り所となったことなどを思い起こしました。つまり、科学的探究の基本には「自由」があること、また、科学の進展は「善」であり、人類の福祉に寄与するものであるという理念を私も共有していたのだと思います。

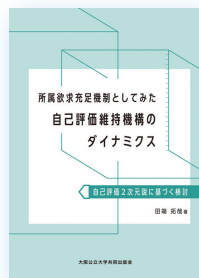
他方で、20世紀以降の科学技术は、社会的かつ経済的構造に組み込まれた体制によって支えられ進展してきたことも確かです。まさに、生命を人為によってつくる「体外受精」がどのような文脈によって正当化された医療となるのか、非常に興味を持ちました。当時は、「脳死・臓器移植」の臨床実施問題が問われていた時期でした。日本では臓器移植

がなかなか進まない現実がありました。「臓器の交換」という発想は確かに医療的には画期的な「治療・延命」を可能にします。しかし、その交換には臓器を提供する人の「死」が前提とされます。神から頂いた「体」という文脈をもたない日本人にとって「脳死」は脳の死であり、その人の「死」とは受け入れられなかったのだと思います。とはいえ、政治的には臓器移植医療を体制に組み込むべく様々な試みがなされていました。では、生命を人の手で作る体外受精はどのような社会的文脈によって体制化されていくのか、私がこの技術に興味をもった瞬間でした。

本書は、1990年からおよそ20年間に試みた調査に依拠しつつ、日本において、人工生殖がどのように展開され、どのような問題を孕みつつ今日の状況になっているのかを明らかにしたものです。世界的にみて人工生殖の平準化の動因は「不妊」の解消であり、日本も例外ではありません。ただ、人工生殖はその社会の「子産み」という文化的装置に沿って展開されてきたことも事実です。今日、多くのバリエーションによって展開されている人工生殖ですが、基本的には「不妊治療」として市民権を得ていると言えましょう。しかし、日本では、たとえば提供卵子による体外受精や代理出産は法的禁止がないにも関わらず、ほぼ行われています。必要な人は海外に出かけて卵子や妊娠出産を購入しているというのが現状です。これが日本における生殖医療の最適化状態であると言えます。

生殖医療の進展は「より良い子どもをもちたい」「生殖のパーツを購入しても子どもをもちたい」など、生殖の欲望を肥大化させてきました。また、精子・卵子の提供者、代理母などの情報管理も問題となっています。日本の社会は、この問題に答えなければならないことは言うまでもありません。さらに、ヒトをゲノムレベルで理解しようという科学的欲望に対する倫理的規制が日本では脆弱であると私は思っています。「汝自身を知れ」という教えとともに、ヴォルテールのいう「自分の畑を耕すこと」を肝に銘じ、本書の続きを書きたいと思っています。

新刊書の紹介



所属欲求充足機制としてみた 自己評価維持機構のダイナミクス

田端 拓哉 著

A5判、上製本、228頁

4,000円＋税

ISBN978-4-909933-05-8 C3011



諸宗教の世界における一世界宗教

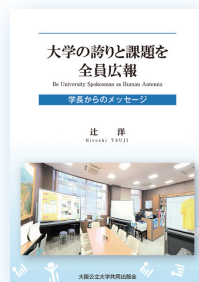
キリスト教という現象

ハンス・ヴァルデンフェルス 著
花岡 永子・吉水 淳子 共訳

B6変型判、並製本、228頁

2,000円＋税

ISBN978-4-909933-06-5 C3014



大学の誇りと課題を 全員広報

学長からのメッセージ

辻 洋 著

A5判、上製本、248頁

2,000円＋税

ISBN978-4-909933-07-2 C0037



種を育てて種を育む

加藤 恒雄 著

A5判、フランス製本、128頁

1,500円＋税

ISBN978-4-909933-08-9 C0061



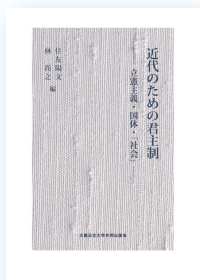
フルート製造の変遷 ―楽器産業の製品戦略―

赤松 裕二 著

A5判、上製本、220頁

2,300円＋税

ISBN978-4-909933-09-6 C3073



近代のための君主制

―立憲主義・国体・「社会」―

住友 陽文・林 尚之 編

A5判、並製本、134頁

1,800円＋税

ISBN978-4-909933-10-2 C3031

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加によって成り立っているNPO法人です。本会は、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社が採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、次のような事業を行っています。

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
- (2) 会員の学術図書の刊行頒布
- (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：http://www.omup.jp/

入会金：一口一万円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりありがとうございました。本年も事務局として、著者の皆様にご満足いただける本を作るご支援をさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

（文責：児玉倫子）